

## サッカー少女だった山下良美さん 女性初のワールドカップレフリーに。 自らが考える3つの責任 【カタールワールドカップ】

11月20日にサッカー・ワールドカップカタール大会が開幕しました。4年に一度のサッカーの最高峰の大会ですが、いつもと違っているのは中東の暑い気温の国で行われるために6月からこの11月に時期がずらされています。選手達はリーグ戦を戦っている最中でしたので、今回はかなりの選手がけがに悩まされています。胸が熱くなる試合がたくさん見られることを期待したいと思います。さて今回は選手たちのほかに、ピッチを駆けることが期待された“もうひとりの日本代表”がいますのでその人を紹介したいと思います。

その人は、大会を支える主審候補として、日本から唯一選出された山下良美審判員です。男子W杯史上初めて選出された、3人の女性主審のひとりでもあります。「男性の試合を女性の審判員が担当することを当たり前にする」という目標を掲げて、これまでJリーグやAFCチャンピオンズリーグといった男子のハイレベルの試合でも主審を務めてきました。

世界最高峰のW杯の舞台で、主審としてピッチに立つかもしれない。山下さんにとって、予想もしていないことだったと言います。

主審候補の1人に選出されると知った時、真っ先に込み上げてきたのは嬉しさよりも「正直言って驚きというのが最初の感情でした」と笑顔で語っています。

日本の審判として、アジアの審判として、そして女性の審判として――。「3つの責任を強く感じて、ぐっと身が引き締まっています」と。

4歳でサッカーを始めた山下さん。サッカーに関わる多くの人と同様に、W杯は「夢の舞台」だったと言います。

以来、なでしこリーグなどで経験を重ね、2021年には女性審判員として初めてJリーグ（J3）で主審を担当しました。

翌22年にはJ1の試合で笛を吹き、アジアのクラブチームチャンピオンを決めるAFCチャンピオンズリーグでは史上初めて女性として主審を務めることとなります。「女性の審判員が男性の試合を担当することを当たり前にする」。山下さんがこれまで繰り返し語ってきた目標です。

W杯のようなハイレベルの試合で審判を務めるには、審判員として高いレベルのスキルや体力が求められます。しかしながら「女性審判員だから務められない」ことはない、山下さんははっきりいいます。

男女双方のカテゴリーの試合で審判を務めてきた自らの経験が、そのことを裏付けているのです。

「男性の試合を女性の審判員が担当しても別にいいじゃないかって。これまでそういう機会がもっとあって良かったと思う。私自身ができるのは、それが当たり前になるよう全力で臨むことだと思っています」とはっきり言います。

サッカー界におけるジェンダー平等の実現は途上です。日本サッカー協会は「2030年までに登録女子プレーヤーを20万人にする」という目標を掲げています。

国外に目を向けると、女子サッカーの強豪で選手数も多いアメリカでは、全ての国際試合や大会で、男女で同一賃金を支払うことで合意し、画期的な一歩を踏み出しています。

ジェンダー平等に向けて、山下さんは「まずは女性の選手がもっと増えたらいいな、サッカーの面白さがもっと伝わったらいいなと思います」と裾野を広げる必要性を指摘しています。

そして、プレーヤーから審判へと視野を広げた自身の経験から、「サッカーにはいろんな関わり方があることを知ってほしい」とも言います。

「サッカーをしていると、やはり近くにいるのはコーチや選手たちになる。でも、試合を運営する方など、いろんな関わり方があります。観客もそうですし、サッカーに関わる女性が確実に増えていっているという実感はあります」

「全国には、男性の試合をたくさん経験してきた女性審判員たちもたくさんいます。そういう審判仲間が積み重ねてきた『信頼』が、いまの状況を作り出しているのは間違いない。そのことをまず伝えたいですね」

### 開催地カタール、人権の観点で厳しい視線

一方、開催地カタールではLGBTQや外国人労働者に対する人権侵害について厳しい視線が注がれています。女性の結婚や教育、キャリアにもさまざまな制限があるとも指摘されています。

カタールで主審を務めることについて、山下さんは「女性活躍や女性進出という意味で、少しでも伝わるものが何かあればもちろん嬉しいです。審判員の立場としては、同じアジアでカタールの女性審判員にお会いしたことがないので、ぜひ今後は一人でも増えて、一緒に活動できる女性審判員の仲間ができたらいいなと思っています」と話してくれました。

本当に今大会をきっかけに男性だけの大会ということではなく、女性審判員も増えることを期待します。

【部活動戦績等 11月】

◆ バレーボール部 ◆

◎ 令和4年度 第7ブロックバレーボール新人大会・代表決定リーグ

- ・10月30日(日曜日) 会場:松木中学校
  - 2-0(多摩永山中 対 打越)25-12、25-16
  - 2-0(多摩永山中 対 横山)25-20、25-12

都大会出場決定しました!

◎ 令和4年度 第66回 東京都中学校バレーボール新人大会



- ・11月13日(日曜日) 会場:修徳中学校
  - 0-2(多摩永山中 対 修徳)

◎ 第22回 たまカップ

- ・11月26日(土) 多摩市立聖ヶ丘中学校
  - 2-0(多摩永山中 対 鶴牧中)A25-3、B15-4
  - 2-0(多摩永山中 対 聖ヶ丘中)A25-8、B15-5
  - 2-0(多摩永山中 対 大妻多摩中)A25-9、B15-1112月11日の決勝リーグへ進出

◆ ソフトテニス部 ◆

◎ 第66回東京都中学校ソフトテニス新人大会

- ・10月30日(日) 個人戦  
奥谷 琉奈・高橋 友香ペア 会場:都立小金井公園  
2回戦 × 2-4 対 羽村第一中学校ペア

- ・11月3日(水) 団体戦  
男子 会場:葛飾区渋江公園  
2回戦 × 1-2 対 鹿浜菜の花中学校  
女子 会場:羽村市武蔵野公園  
1回戦 ○ 3-0 対 原宿外苑中学校  
2回戦 × 1-2 対 羽村第三中学校

◎ 中央大学杯スポーツ大会 中央大学八王子キャンパス

- ・11月27日(日) 日南地区代表として参加

◆ 陸上競技部 ◆

◎ 第37回 東京都中学校女子駅伝大会

- ・11月12日(土) 夢の島陸上競技場  
51チーム中35位 51分58秒  
1区 松田 悠楽(3年) 2区 領毛 芹佳(3年)  
3区 塚原 美羽(1年) 4区 市川 愛理(1年)  
5区 湯浅 みなみ(2年)



◆ 女子バスケットボール部 ◆

◎ 73地区中学校バスケットボール新人大会

- ・11月20日(日)
  - 72-28 (多摩永山中 対 聖ヶ丘中)
- ・11月27日(日)
  - × 21-52 (多摩永山中 対 日野四中)12月4日(日)の決勝トーナメント進出決定。

◆ 令和4年度 第15回「税の標語」入賞作品 ◆

日野間税会主催・国税庁後援の4057点の作品の中から選出されました。

日野間税会 佳作

「国のため みんなができる 消費税」

2年 山下 路樹

◆令和4年度 歯と口の健康啓発標語コンクール◆

作品出品者

- |    |        |       |       |
|----|--------|-------|-------|
| 1年 | 深見 勇斗  | 川上 凜  | 市成 千春 |
|    | 赤坂 龍臥  | 鈴木 和生 | 宮迫 結藍 |
| 2年 | 菅 蒼太朗  | 奥谷 琉奈 | 立花 桃夏 |
|    | 小倉 羽琉希 | 篠原 沙羅 |       |
| 3年 | 古田 美羽  | 早津 結陽 | 鈴木 衛人 |
|    | 山口 紗季  |       |       |

11月11日(金)、定期テスト最終日の15時から永山地区委員会・瓜生地区委員会・PTAスタッフCの皆様の企画で中学生との交流事業のボウリング大会が開催されました。参加生徒21名、PTAの方4名、地域の方5名で実施できました。初めてボウリングを経験する生徒もいました。また、心温まる賞品、参加賞を頂き、大変楽しい時間となりました。